

南郷小学校

「いつも笑顔で元気です」

校長 坂本 恭美子

◆「いつも笑顔で元気です」

学校にはさまざまな目標がありますが、その中で頂点にあるのが、学校教育目標です。学校教育目標は、学校教育に携わるみんなの目標です。もちろん、学びの主体者は子どもですから、子どもにとって大切な目標です。

子どもが、教職員が「いつも笑顔で元気です」と言える学校とはどのような学校でしょうか。

子どもにとっては、「学校が楽しい」「心許せる友だちがいる」「勉強がわかる」「挑戦したい」、教職員にとっては、「仕事にやりがいを感じる」「ライフワークのバランスがとれている」、そして何より、心身ともに健康でいられる学校でしょう。みんなが安心して学べる環境づくりが学校経営の最優先課題です。

◆チーム南郷！教科担任制

本校では令和元年度から教科担任制に取り組んでいます。教科担任制のメリットは①教科指導の専門性が高

まり児童の学力が向上する
②全教職員で全児童を育てるチーム支援体制が整う③教員のカリキュラムマネジメント力が向上するなどがあげられます。

小規模小学校における教科担任制は新たな挑戦です。定期的に教科部会を開催し、教科の本質に迫る授業となるよう教員同士の学び合いを大切にしています。

◆「〜たい」のいる授業

今年の研究テーマは「子ども『〜たい』を引き出す授業」授業十の型を通して〜です。

授業の成功のカギは、そこに子どもの「〜たい(意欲)」があつたか否か。「解きたい」「わかりたい」「もつと知りた〜い」「そんな〜たい」のいる授業を目指して、日々教材研究に励んでいます。

詩の一節です。

「教室はまちがうところだ。みんなどしどし手をあげて、まちがった意見を、まちがった答えを言おうじゃないか。まちがうことをおそれちゃいけない。まちがったものを笑っちゃいけない。みんなで出し合い言い合う中で、ほんとのものを見つけていくのだ。そうし

てみんなで伸びていくのだ」そんな教室を、南郷小学校は、めざします。

そのために重要なことは、子どもの「〜たい」を引き出す教員の指導力の向上です。

◆「授業十の型」守・破・離

本校には勤務年数20年以上のベテランから、5年以内の教員がバランスよく配属されています。それぞれの教員が、学年団で、教科間で、専門性や良さを最大限に生かし連携しながら教育活動に熱心に取り組んでいます。



本校の目指す子どもの「〜たい(意欲)」を引き出す授業にするための指導技術教本が「授業十の型」です。基本の型を徹底的に習得すれば、子どもは、もつともつと学ぶことが楽しくなり、学びの主体者になれます。

「基本なくして応用なし」基本をおろそかにせず、地道に基礎を築き、指導力に磨きをかける。本校の教員は「南郷小授業十の型」を習得し技を磨きます。

この「十の型」には、デジタ

ル機器の効果的な活用も含まれています。全てをデジタルに移行するのではなく、これまでの学習方法とデジタルの融合を追求します。

◆大きく伸びよもるとともに



今年の運動会も、新型コロナウイルス感染症の対策に万全を期し、保護者・地域の皆さんのご理解・協力を得て開催することができました。

勝負の結果は、なんと同点。採点係の「赤280点、白280点で同点です」の声に、「やった〜！」と両組から歓声が上がりました。引き分けでがつかりするのではなく、どちらも優勝できたことを素直に喜んだ瞬間でした。

運動会に向け一生懸命練習に励み、全ての種目競技に全力で挑んだからこそ、同点という結果に満足しやり切った思いが体中を駆け抜けたのでしよう。まさに、「晴天を突き、白雲を突き抜くような勢いで前に進む」の言葉がぴったりくる子どもたちの健闘でした。

日々の授業と学校行事を通して、子どもはみんな一緒に伸びていきます。

◆花いっぱいにな〜れ

1日の学習が終わるとランドセルを玄関に置き運動場にかけて歩いていく子どもたち。玄関にはランドセルの花が咲きます。それぞれが好きな遊びを友だちと一緒に楽しんでいきます。しばらくして下校のチャイムが鳴ると、みんな名残惜しそうに帰っていきます。

この笑顔を曇らせず心に灯をともすのが学校教育の原点です。そして、自他の命を大切に、支えてくれる周りの人に感謝の気持ちを忘れないようありがたうの花も咲かせます。

今後も、児童の主体性・多様性を尊重する人権教育を学校経営の根幹とし、一人ひとりの自己実現を図り、新しい時代に必要な資質・能力を高める創意ある教育活動を展開します。



「先生、おはようございます！歌を歌いながら来たよ」今朝も元気に子どもたちが登校してきました。さあ、1日の始まりです。

上川口小学校

「笑顔と意欲に満ち

共に学び高め合う」

学校を目指して

～協働と徹底～

校長 野中 道八みちや

40年前から続いています。つまり上川口小学校の伝統となつていくわけですね。先輩たちから受け継いだ一輪車への思いと技は、今も受け継がれている上川口小学校です。

◆伝統を守る

「みんなで取り組む一輪車」



上川口小学校の児童数は36名、一輪車の台数は47台、児童の数よりも一輪車の数が多い学校です。

春の運動会では、1年生から6年生までが一輪車パレードに参加し、技を競い合いました。1年生は、入学してから1カ月後に行われる運動会をめざして練習を行います。今年度の1年生は4名。毎日、毎日練習を行いました。その結果、運動会当日、全員が一輪車パレードに参加することができ運動会を盛り上げました。この一輪車への挑戦は、

◆「知・徳・体」のバランスの取れた児童の育成を目指して

昭和58

年から今年まで行われてきた「体育科を通して、知・徳・体のバランスの取れた児童の育成」への取組は、今も引き継がれ行われています。



上川口小学校36名の元気の源をつくっているのが朝運動「くじらっこタイム」です。バランスのとれた体と心づくりを目的として行われる「体づくり運動」です。7時50分になると子どもたちが校庭に集まり準備運動（ジャックナイフストレッチ）が始まります。4月から6月にかけては、一輪

車と持久走（朝マラソン）に取り組んでいます。一輪車は、レベルを決めて取り組みクリアすれば次の段階に進みます。高学年になると30メートルのタイムを競います。最高タイムは、10秒を切るスピードで走り抜けます。朝マラソンでは、自分のペースで周回を決めて5分間を走り切ります。6月から11月にかけては、体づくり運動に取り組めます。今、一番人気の運動は、ボールを使つての「的あて」です。体のバランス、心のバランスをしっかりと整え、1時間目の学習に向かっています。

◆地域力が学校を支える

今年度「コミュニティ・スクール」を目指して取組を始めた上川口小学校です。

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者と地域が信頼を深め、三者が一体となつて学校運営の改善や児童生徒の健全なる成長を目的して取り組む仕組みです。そこで、今回コミュニティ・スクールで取り組んだのが「環境問題」です。「ごみ問題や二酸化炭素の排出問題」は、私たちの生活にとつて喫緊の課題となっています。その環境問題を子どもたちと一緒に考えよう

と環境活動家の谷口たかひささんを招いての学習会を開きました。「みんなが知れば必ず変わる。知ること守れる未来」と題して、温暖化や気候変動についてわかりやすく話をいただきました。子どもたちは、一生懸命に話を聞き地球の未来につい



つぱいに子どもたちの声や響き渡る学校、これが、上川口小学校です。



て考えを深めていきました。今後コミュニティ・スクールは、子どもたちのために何が出来るかを、学校と地域が一体となつて考え取り組んでいきます。今から子どもと体験学習を通して子どもたちの学びをみんなで深めていきます。

◆今からの上川口小学校

「体験学習からの学びを生きる力に変える」

本年度、全校生徒36名でスタートした上川口小学校です。学校教育目標の中に「笑顔と意欲に満ち共に学び高め合う」という言葉があります。子どもたちが自信と意欲をもって学ぶことのできる



教育活動は、体験学習から生まれてくると言われています。本校では、多くの体験学習からの学びを学力に変え、「生きる力」を育んでいきたいと考えています。